

観光文化委員会



3月3日(火)広島市において、2025年度第2回観光文化委員会を開催しました。

当日は、西日本旅客鉄道株式会社にご協力いただき、広島駅ビルプロジェクトのご説明をいただいた後、商業施設「minamoa」(ミナモア)や「ホテルグランヴィア広島サウスゲート」を見学しました。その後、観光文化委員会の事業の実施状況報告および来年度の事業計画(案)の審議を行い、原案どおり承認されました。

ここでは広島駅プロジェクトの概要について紹介します。

「広島駅ビルと地域共生の取り組み」

西日本旅客鉄道株式会社
中国統括本部

副本部長 保井 隆宏 氏
主査 齋藤賢太郎 氏



保井副本部長

■広島駅プロジェクトの意義

広島駅は中国地方の玄関口として多くの方にご利用いただいており、当社管内では大阪駅や新大阪駅を上回って、運賃・料金の収入が最も多い。2020年に着工した広島駅ビルプロジェクトは、コロナ禍の影響を受けたものの、広島の未来を象徴するエリアへの進化を目指す社運をかけたプロジェクトとして中止・延期されることなく進められ、2025年3月の開業に至った。

■新駅ビルのデザインコンセプト

新駅ビルのデザインには、広島のアイデンティティである「平和都市」と「川のまち」の2つの軸が反映されている。

- ① 平和都市：平和の象徴である折り鶴をイメージし、壁面や柱、大屋根などに折り紙の「折り」のデザインを採用している。
- ② 川のまち：タイルには広島市内を流れる6本の川をイメージした模様を施しているほか、水辺の文化を象徴し、かつての船着き場である「**雁木**」をモチーフにした階段状の屋上広場やテラスなどを整備している。

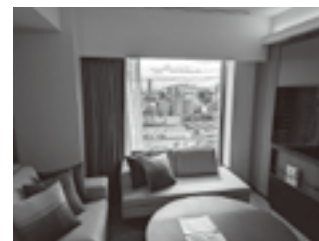


広島市内6本の川のデザイン

■賑わい創出と交通結節機能の強化

2025年3月に開業したminamoa (ミナモア)は、「水面」「みんな」「もっと」という言葉を重ね合わせて名づけられた名称で、地元企業27店舗を含む約190店舗が出店し、広島の魅力を内外に発信する拠点となっている。

また、同時に開業したホテルグランヴィア広島サウスゲートは、「瀬戸内の玄関口」をコンセプトに掲げている。380室の客室を備え、大きな窓からは広島の街並みや瀬戸内海を一望できる。



ホテル最上階の部屋の様子

8月には広島電鉄の路面電車が駅ビル2階へ直接乗り入れるようになった。路面電車が高架構造で駅ビル内へ乗り入れるのは全国初であり、乗り換えの利便性や市街地などへのアクセスが大幅に向上している。

■地域との連携と今後の展望

2026年3月からは、開業1周年を機に、広島電鉄や広島市と連携した「ひろしまオーバルフェス2026」やアプリ「WESTER」を活用したスタンプラリーなどのイベントを開催し、駅と広島市中心部とのつながりを強める取り組みを行っている。また、駅ビルと周辺施設を結ぶデッキの一部を供用開始しており、2028年春から年度末にかけて、残りの接続デッキや南口交通広場などを順次整備し、回遊性をさらに向上させる予定である。

(担当：大塚)